

令和6年度 宮城県鹿島台商業高等学校 学校視察（県外視察）報告書

<p>研修先（視察校）</p>	<p>① 栃木県立足利清風高等学校（総合選択制：普通科・商業科） ② 栃木県立鹿沼商工高等学校（商業科・情報科学科）</p>
<p>研修内容</p>	<p>1 ねらい</p> <p>本校では、地域に根ざした魅力ある学校づくりに向けて、商業科目におけるJR東日本との共同企画「駅からハイキング」をはじめ、地元企業のウェルファムフーズ「森林どり」の知名度向上プランの実践（SNS動画配信・互市での販売実習）などに取り組んでいる。また、「総合的な探究の時間（わらじぶろぐらむ）」では、地域の課題を解決するためのプランの提案や魅力発信などの探究学習、自己の進路探求や豊かな生活を送るための反貧困学習などの活動を実践している。これらに加えて、令和5年度より金融経済教育研究校としての指定を受け、教科横断的学習の実践や新たな地域貢献活動の展開に向けて試行的に取り組んでいるところである。</p> <p>これらの活動のさらなる充実を図るために、商業教育や「総合的な探究の時間」において先進的な取組をしている学校を視察し、地域の関係機関と協働した教育活動（組織体制等）や、商業科における「総合的な探究の時間」と「課題研究」の接続、組織体制や学習評価等などについての研鑽を深めることを目的として実施した。</p> <p>2 視察結果</p> <p>視察校① 栃木県立足利清風高等学校</p> <p>○「総合的な探究の時間」の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度入学生までは普通科〔1年次：1単位、2年次：2単位〕と商業科〔1年次：1単位、2年次：1単位（インターンシップ実施）、3年次：課題研究3単位（1単位代替）〕で別れて総探を行っていたが、令和6年度入学生より合同で実施している。</li> <li>・1年次では基礎的な学習や外部講師による地域理解の講座等を実施している。2年次では普通科で個人探究、商業科でインターンシップを通じて職業と地域理解を深める学習に取り組んでいるが、令和7年度からは商業科と普通科の合同でインターンシップが実施される。商業科3年次は「課題研究」として、地域課題に取り組みながら1・2年次の「総合的な探究の時間」における学びとのつながりを踏まえた学習を実施している。</li> <li>・学習評価は、定期考査で知識・技能を問う問題を出題し、課題や提出物等から思考・判断・表現や主体的に学習に取り組む態度を評価している。特に商業科の学習評価では、プレゼンテーションやディスカッション能力の向上を重視し、課題解決学習やグループ活動を通じてこれらのスキルを評価する仕組みが特徴的である。生徒が授業で自分の意見を発表したり、他の生徒や卒業生等と意見交換を行ったりする場面では、論理的</li> </ul>

な説明力や質問に対する応答力などを振り返りシートにまとめさせ、評価に活用している。さらに、発表後には教員や級友からのフィードバックがあり、これをもとに次回の発表に向けた改善点を明確にする。このサイクルを通じて、生徒は発信力や他者と協働する力を高められるように工夫している。

○資格・検定取得状況と指導体制

日商簿記2級や各種1級の資格取得者が毎年出ている。検定試験前には特別課外を実施し、資格取得を支援している。高崎商科大学との高大連携講習も行い、生徒のスキルアップを目指している。

○キャリア教育とインターンシップ

キャリア教育では、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の育成を重視している。市役所や商工会議所、地域企業の協力を得て、インターンシップを実施し、外部講師によるビジネスマナー講習も行っている。3年次には、主権者教育の観点から社会人として必要な法律知識の指導も行っている。

○「課題研究」と地域連携

地域課題の解決に向けてデータ活用を重視した活動を実施し、外部講師と協働して探究活動を展開している。インターンシップの成果をもとにした研究や地域企業との協力による商品開発等を行い、生徒の主体的な活動を支援している。また、地域素材を活用した商品開発や飲食店とのコラボレーションを行い、学習の成果を地域の方々に向けて発表する機会を設けている。

○哲学対話

「哲学対話」を通じて、生徒（上級生・下級生）や講師（卒業生を含む）が互いに考えを発表し合い、自己理解を深めている。また、振り返りシートを活用し、国語科教員と連携して表現力の向上を目指している。

○進路と探究の関係

進路活動では、探究活動で培ったスキルが生かされており、進学や就職に結びついている。探究が進路活動の終了とともに完全に終わらないよう、学びを深め続ける姿勢を重視し、指導体制、内容を工夫している。

視察校② 栃木県立鹿沼商工高等学校

○地域産業との連携による商品開発

地域産業と連携し、特産物を活用した商品開発を行っている。代表的なプロジェクトとして、地元産のいちごを使った「いちごまんじゅう」の製造・販売が挙げられ、地域イベントや物産館での販売活動を通じて実践的なビジネス経験を積んでいる。

○企業との協働による実践教育

地域の菓子メーカーや商工会議所の協力のもと、商品企画や製造、販売に関わる一連のプロセスを学ばせ、経営やマーケティングに対する理

解を深められるようにしている。専門的な知識や実務に触れる機会を多くもたせるとともに地域貢献活動にもつながるプログラムが展開されている。

○生徒商業研究発表大会への参加

商業部が生徒商業研究発表大会に例年参加し、関東大会や全国大会で成果を発表するなど高い実績を残している。商品開発だけでなく、プレゼンテーションやビジネスプランニングのスキルも磨いており、課題解決力が向上している。

○「総合実践」の学習指導

- ・実際のビジネスの流れを模倣し、帳票作成や取引の流れを学ぶ体験型学習が行っている。見積書や請求書などの書類を手書きで作成し、それをもとに取引を進めるなど、ビジネスの実務を想定した実践的な学習を実施している。また、ビジネスソフトも積極的に活用し、ITスキルを駆使した実務作業が体験できるようにしている。オフィス環境を再現し、PCを使いながらビジネスの基本的な流れが学習できるよう工夫されており、デジタルとアナログの両方の作業ができるよう指導している。これらを踏まえた模擬取引を通じて、実際の商取引の手順やコミュニケーションスキルを学ばせている。
- ・生徒同士で取引先役や顧客役に分かれてやりとりを行うことで、書類作成から交渉、最終的な決算までの一連の流れを学ぶことができるようにしている。これにより、ビジネスの現場で必要とされるコミュニケーション能力や実務処理能力が育まれている。また、ビジネスコミュニケーションスキルの向上を重視し、礼儀作法や電話対応など、きめ細かな指導を行っている。

○進路指導（公務員対策）における上級学校との連携

公務員試験対策として専門学校と連携した特別講座を開講し、希望者に対して学習支援を行っている。また、長期休業中に公務員試験対策や進路講座も実施し、専門学校と緊密な連携を図っている。

○デジタルサイネージの活用

デジタルサイネージ（映像表示装置による情報発信システム）を使って学校や地域のプロモーション活動を行っている。校内の玄関に設置されているデジタルサイネージには、学校紹介動画や地域イベントの案内を表示している。コンテンツは生徒が作成しており、デジタルメディアを活用したプロモーションは、プレゼンテーション能力やデジタルスキルの向上に効果がみられる。

○地域資源を活用した新商品の開発

地域資源であるいちごをさらに活用するための新たなプロジェクトとして「いちごしゅうまい」の開発にも取り組んでおり、既存の「いちごまんじゅう」に続く商品として注目されている。地元の企業と協力しながら、形状や製造方法等を検証中であり、地域の名物商品となる可能性がある。

<p>今後の学校づくり に向けて</p>	<p>視察校① 栃木県立足利清風高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「総合的な探究の時間」における探究活動と進路探求のバランス <ul style="list-style-type: none"> <li>探究活動が進路探求の内容に偏らないよう内容の整理や指導体制の工夫に取り組む。また、生徒の主体的な学びを持続させるための課題(テーマ)を設定したり、学習形態等の自由度を拡げたりするなど、柔軟な指導計画・環境整備を進めていきたい。</li> </ul> </li> <li>○外部の関係機関等との協働・教育資源の活用による探究活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>商業科目の学習指導と大学や企業、商工会議所等との緊密な連携が、学習プロジェクトや実習の機会を増やし、探究活動をより実践的なものとなるようにしたい。多様な見方・考え方に触れさせることで、生徒が多角的な視点から地域や社会の課題を見出し、自己探求も含めた探究学習に取り組めるようにしたい。</li> </ul> </li> </ul> <p>視察校② 栃木県立鹿沼商工高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域連携による探究活動の充実とデジタルサイネージの利活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>既存の人的・物的資源を活用したプロジェクトをさらに発展させるとともにデジタルサイネージを積極的に活用することで、生徒が主体的に地域全体のプロモーション活動に関与することで、ビジネススキルやデジタルスキルの向上を図りたい。</li> </ul> </li> <li>○商業科における指導と評価の工夫・改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>「総合実践」におけるビジネス実務や模擬取引の指導をさらに充実させるため、ビジネスシミュレーションソフトを導入したり、オンライン取引の実践を取り入れたりするなどして、現代のビジネス環境に応じた学習指導の体制づくりに取り組む。また、実務処理能力やビジネスマナーの評価基準を明確化し、生徒の主体性や実践力を総合的に評価する仕組みを構築したい。</li> </ul> </li> <li>○キャリア教育と進路指導の連携強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>商業教育における地域連携と進路学習につながりをもたせ、進路選択の幅を広げるためのプログラムを構築したい。また、上級学校への進学や公務員試験に向けた学習支援を充実させ、生徒の多様な進路希望に応じるとともに、将来の進路を多角的に考える機会を増やしたい。</li> </ul> </li> </ul>
--------------------------	---